

理事会より  
沖縄視察報告 知っていますか?沖縄の基地のはなし

コープおきなわから「沖縄県辺野古の新基地問題について、ひとりでも多くの理解を広げるため、実際に視ていただきたい」という呼びかけが、全国の生協にありました。その呼びかけを受けて、4月2日(土)~4日(月)によどがわ生協の理事会として、役職員8人で、沖縄へ視察を行いました。



平和記念資料館前にて

## ● 沖縄には、国内の在日米軍基地の74%が集中

1950年代、少なくとも全国33都道府県に米軍基地があり、基地負担の割合は「沖縄1割 本土9割」でした。しかし、高度経済成長の時代、全国で次々と基地反対の声があがり、こうした動きを抑えるために、日本政府は米軍基地を本土から沖縄へ移していきました。当時の沖縄はアメリカの占領下にあり、アメリカが自由に基地を作り、使うことができました。この構造が返還後も固定化したままとなっています。(沖縄返還は1972年)

## ● 住宅密集地にあり、「世界一危険」といわれている普天間基地

宜野湾市の中心に、東京ドーム100個の広さを持つ普天間基地があります。基地はまさに住宅密集地のど真ん中にあり、「世界一危険」といわれている現状を実感できました。基地周辺には14の小・中学校や、120カ所の病院や保育所などの公共施設も集中しています。住民は、騒音や飛行機の墜落事故の危険と隣り合わせの生活を余儀なくされています。普天間基地所属航空機に関わる事故は、過去43年間で105回も起きています。

## ● 普天間基地移設問題

1995年に起きた米兵による少女暴行事件をきっかけに、それまで沖縄で起きていた米兵による犯罪や基地の騒音や「日米地位協定」に苦しみられてきた県民の怒りが爆発し、「基地はいらない」という大規模な抗議行動に発展しました。1996年、県民の反米基地感情を鎮静化し、基地を維持し続けるために、日米両政府は沖縄の基地問題の象徴的存在であった「普天間基地の返還合意」を発表しました。

しかし、沖縄県内の移設が条件だったため、その移設先として新たに浮上した名護市辺野古を巡って事態は混乱し、20年経った今でも普天間基地返還は実現していません。

## ● 辺野古への「移設」ではなく「新基地建設」

政府は、「普天間の危険を取り除くために辺野古へ移設する」と言っています。しかし、普天間は基地として老朽化しており、今後もオスプレイを使い続けるには不都合なのです。そこで、辺野古には普天間にない新しい機能(V字滑走路・海軍強襲揚陸艦※1を接岸できる岸壁・弾薬搭載エリアなど)を備え持つ基地をつくらうとしています。新基地建設費1兆円もすべて日本の税金があてられようとしています。本当に造りたいのはアメリカではなく、日本政府だともいわれています。

※1)強襲揚陸艦(きょうしゅうようりくかん)とは、揚陸艦のうち輸送ヘリコプターおよび各種上陸用舟艇を搭載・運用する能力を持つ艦のこと。



沖縄の宝である海を埋め立ててしまうと、元に戻すことはできません。

## ● 将来も基地が沖縄に固定化?

日本政府は1兆円をかけて、完璧な基地を辺野古につくらうとしています。しかし、近い将来にアメリカは海兵隊18,000人のうち9,000人をグアムやオーストラリアへ転移させるつもりです。では、耐用年数200年といわれている辺野古の新基地はどうなるのでしょうか。その後は日本の自衛隊が使うのではないかとされています。沖縄の基地は返還どころか固定化されてしまうと考えられています。



私たちの『日本のどこにも基地はいらない“沖縄の問題”ではなく、  
想い “私たちの問題”として考えましょう』

私たちには大事なことが見えていないかもしれません。「辺野古への移設」だと思っていたけれど、「新基地建設」だという事実。基地にあるフェンスの向こうはアメリカだという現実を、この視察で見つけられました。日々繰り返される米軍の訓練や、その中で起きる事故や事件。人の命をどう思っているのでしょうか。沖縄県民が基地のない静かな空、平和なくらしを願うことは、人間らしく生きていくための自由と権利です。それは誰にも侵すことはできません。基地問題は人権問題であるということもわかりました。1つの情報だけで判断せず、しっかりと自分で見る・考えることが必要だと感じました。沖縄だけの問題ではなく、私たちの問題として考えてみませんか?

今秋に「沖縄学習会(沖縄視察報告会)」を企画しています。ぜひご参加ください。

## 沖縄視察行程



4/2(土)

● 午後、沖縄着

コープおきなわ平和推進委員の元副理事長・横田さんより「沖縄の歴史と現状~沖縄戦・米軍基地について~」の講話。

4/3(日)

● 沖縄戦最大の激戦地だった宜野湾市の「嘉数高台」にある、米軍上陸地点や陣地壕、「京都の塔」(日本軍は肉弾攻撃を行い玉砕。その多くが京都出身で、戦後19年を経て京都市民により建てられた鎮魂の塔)など見学。

● 普天間飛行場を外から視察。

● 「安保の見える丘」より嘉手納基地を一望。

● 辺野古の新基地建設反対抗議活動拠点へ。市民団体の座り込みが行われているテント村や、瀬高の浜を訪れ、フェンス越しにアメリカと日本の境界線を感じました。

4/4(月)

● 集落の避難指定壕から日本軍の陣地壕や倉庫となり、さらに陸軍病院の分室となった「糸数壕」を見学。当時この壕は、軍医・看護婦・ひめゆり学徒隊が配属されていました。

● 平和記念公園にある「平和の礎」を訪れました。(太平洋戦争・沖縄戦終結50周年記念碑)

● 午後、大阪へ帰路



<http://www.yodogawa.coop/>

よどがわ生協 検索

今月の  
生協さん  
第2支所



配送地域:高槻市担当 僕のおすすめは  
中村 修治(なかむら しゅうじ)「たすけあい共済」です!



よどがわ市民生協は  
環境マネジメント  
システムに基づいた  
とくみを行なっ  
ています。

エコアクション21  
認証・登録番号0006727